

# ゆるめな

vol. **22** 2011

- ▶ 理事長のあいさつ
- ▶ 『平成22年度 男女共同参画フォーラム』に参加
- ▶ 医療法人圭良会 新年会
- ▶ 健康ひろば「インフルエンザの予防について」
- ▶ 文化祭
- ▶ 第52回全日本病院学会 in 兵庫に参加
- ▶ 編集後記



## 病院理念

- 信頼される医療・保健・福祉を提供し、地域の健康増進に貢献する

## 基本方針

- 良質な医療を提供するため、心と技術を磨く努力を惜しみません
- 患者の権利、尊厳、安全を重視した医療を提供いたします
- 医療、福祉と連携を持ち、急性期医療から在宅医療まで、全員参加で取り組みます

いま、何故ワーク・ライフ・バランスが必要なの？

年末、冬将軍が日本列島をおそいましたが、平穏なお正月を迎えることができました。来年24年は診療報酬・介護報酬同時改定の年になるので、今年はその動向をみつつ、気を引き締めておかなければと思います。1月15日に高松市において開催された「男女共同参画フォーラム」のパネリストを引き受けたことから、当法人のワーク・ライフ・バランスの取り組みを、過去十数年にわたり見直すことができました。

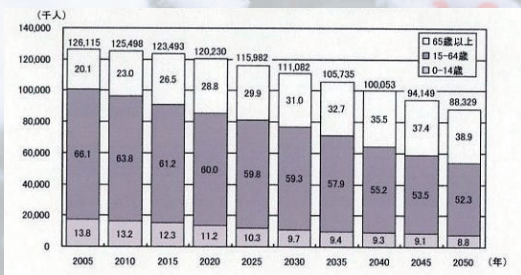
当法人は、平均年齢39歳、女性が80%を占めます。したがって、結婚、出産、育児を迎えることになる職員は多数います。またこの時期は、仕事をどんどん吸収できるスキルアップの時期でもあります。そこで、仕事と育児の両立支援が大切になります。

当法人の取り組みの始まりは、平成6年の院内託児所です。現在まで続けて運営しており、ここ数年間は利用者が増加し、夜間保育や短時間保育にも対応しています。今では建物も広くなり、砂場つきの中庭もあります。職員に喜ばれていることは、就業場所の近くなので安心であること、保育士が親の仕事を理解してくれているので遅くなくてもみもらえることなどです。

育児休業制度も早くから制度として取り入れ、平成8年より取得率は100%維持しています。さらに働き続けられる職場環境を充実させるため、平成18年に国がすすめる「次世代育成支援対策推進法」にともない、一般事業主行動計画にも参加し、平成20年には、県内5番目に次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。「くるみん」マーク取得基準には、男性の育児休業取得があげられており、仕事と育児の両立の職場風土には意識改革がおりつつあります。

ここで、確認しておかなければならないことがあります。なぜ、このようにワーク・ライフ・バランスをすすめる必要があるのかです。

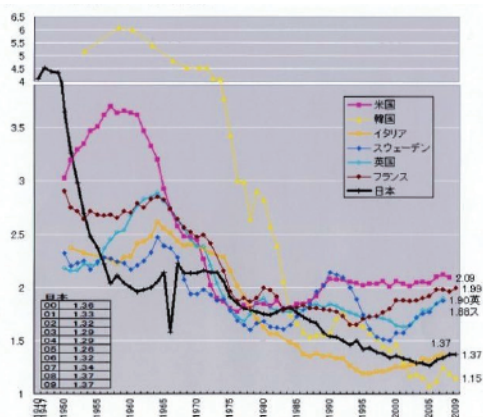
図1. 日本人人口の将来推計と年齢構造



(エイジング総合研究センター資料)

統計資料(図1)では、「2005年より死亡者数が出生数をうわまわり、昨年の死亡者数は戦後最多の119万人となった」、「現在の状況から推測した2050年の人口は8千万~9千万人に減少し、65歳以上が40%を占めることになる」となっており、元旦の某新聞記事では、「この少子化と高齢化が同時に押し寄せてくる世界に先例なき難関を、日本がどのようにしてのりきるか注目している」とありました。

図2. 合計特殊出生率(日本と諸外国)



(人口問題研究所資料)

日本ほどの高齢化は来たしていませんが、1980~1990年代のフランス、スウェーデンにおいても出生率が低下し、国をあげて少子化対策がとられてきました。(図2)きめ細かい対策が長期間行われてきた結果、現在両国の出生率は2.0付近まで回復しています。また同時に、両国の20代後半、30代女性労働力率は、日本より高くなっており、男女共同参画社会としてかなり成熟しているといえます。

このような人口問題を背景とし、種々の変化がおり、国のあり方にも影響してきます。いずれにしても、少子化対策は国をあげて取り組まねばならないことと思います。一企業では対応しきれないことなのですが、日本がこのような状況下にあることを理解し、両立支援を全職員にかかわることとして、「職場は、助け合い、支え合うコミュニティー」であるという意識のもと、広い意味でのお互い様の風土づくりをすすめていきたいと思っています。

理事長 森 伊津子



## ●『平成22年度 男女共同参画フォーラム』に参加

『平成22年度 男女共同参画フォーラム』に、理事長がパネリストとして参加しました。院内託児所の設置や、介護と仕事が両立できる制度づくりなどを進め、女性が働き続けられる環境整備の重要性を強調。「職員満足度の向上を良質な医療・介護サービスの提供につなげ、患者さまの満足度向上を図りたい」との考えを話しました。



## ●医療法人主良会 新年会



1月22日(土)、毎年恒例の新年会が開催されました。各チームによる『かくし芸大会』で1年が始まると言っても過言ではありません。今年も、終始笑いの絶えない楽しい新年会となりました。



# 健康ひるば

第11回  
テーマ

「インフルエンザの予防について」

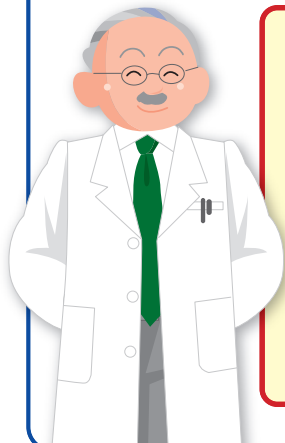
インフルエンザの季節となりました。あなたの周囲に、妊婦、幼児、高齢者がいる場合には特に感染予防を心がけましょう。また慢性呼吸器疾患、慢性心不全、糖尿病、腎機能障害、免疫不全などの持病がある方はインフルエンザに感染すると重症化するリスクが高くなります。

### ●インフルエンザの予防

1. 外出後の手洗いとうがいを心がける
2. マスクを正しく着用する
3. 不要な外出を控える
4. インフルエンザウイルスが漂わないように室内の湿度を加湿器で50%程度に保つ
5. バランスのとれた食事と十分な休養をとる
6. インフルエンザワクチンの接種  
(ワクチンの効果はおおよそ半年間です)

新年にあたり、  
お互いにインフルエンザの  
感染拡大を防止して清々しい1年を過ごしましょう!

呼吸器外科 中島 成泰



厚生労働省は、通常のインフルエンザでは熱がさがってから2日目まで、新型インフルエンザでは発熱や咳・のどの痛みなどの症状がはじまった日の翌日から7日目まで、外出を控えるように呼びかけています。



## ●文化祭

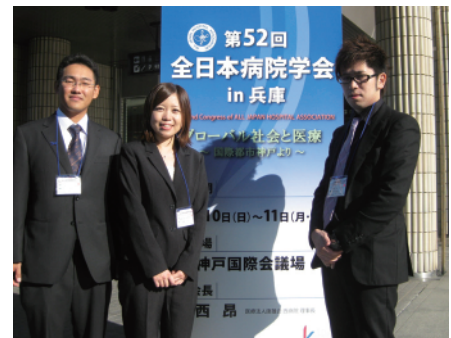


平成22年11月2日～8日にかけて、恒例の文化祭(作品展示)を行いました。作品数は少なかったのですが、そのぶん患者様や利用者様の力作ぞろいで、会場となった外来待合室で、多くの人の目を楽しませてくれました。今年も同じ時期に開催予定ですので、我こそは! という方は、是非ご参加ください。

## ●第52回全日本病院学会 in 兵庫に参加

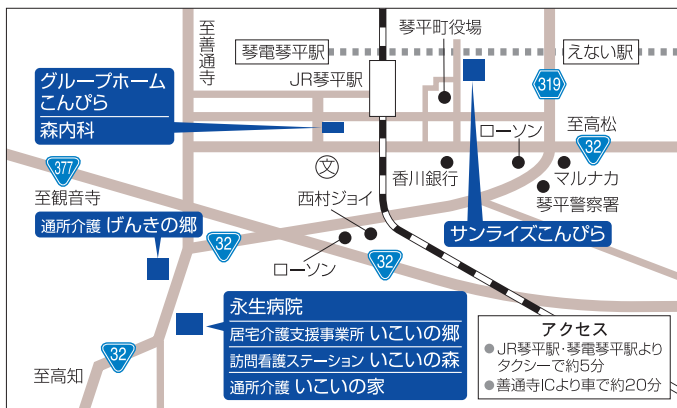
平成22年10月10日・11日、神戸で開催された、第52回全日本病院学会 in 兵庫に参加し、3演題の発表をしてきました。居宅介護支援事業所いこいの郷(ケアマネジャー)より『在宅酸素の管理が必要な高齢者の一人暮らしを支援して』リハビリテーション科(理学療法士)より『認知症短期集中リハビリテーションを行って』栄養科(管理栄養士)より『嚥下障害者の在宅復帰へのアプローチ』というテーマで発表しました。

今後在宅生活への継続支援や病棟でのチームアプローチに努めていきたいと思っております。



### 【編集後記】

寒い日が続きますが、風邪などひかずに元気にお過ごしでしょうか?  
 昨年も色々な出来事がありましたが、悪いニュースが多い中、チリの落盤事故からフェニックスカプセルで、33人を脱出させた技術と忍耐、二人の日本人のノーベル化学賞受賞などは感動と勇気を与えました。皆様の心に残るニュースは何かありましたか?  
 私達も、小さな感動と勇気を伝えられるよう、自分に与えられた仕事に邁進致しますので、今年も宜しくお願い致します。



### 医療法人 圭良会

● 永生病院	香川県仲多度郡まんのう町買田221-3 Tel 0877-73-3300
● いこいの森 (訪問看護ステーション)	Tel 0877-73-3700
● いこいの家 (通所介護)	Tel 0877-73-3718
● いこいの郷 (居宅介護支援事業所)	Tel 0877-73-3655
● げんきの郷 (通所介護)	仲多度郡まんのう町買田102-1 Tel 0877-58-8811
● 森内科	香川県仲多度郡琴平町167 Tel 0877-73-4188
● グループホーム こんびら (認知症高齢者グループホーム)	Tel 0877-73-0811
● サンライズこんびら (小規模多機能型居宅介護)	香川県仲多度郡琴平町榎井字池田451番地1 Tel 0877-58-8600



永生病院 130床(一般病棟 40床・療養型病棟 90床)

永生病院広報誌「ゆるめさ」第22号  
 発行元：医療法人圭良会 永生病院  
 編集者：医療サービス改善委員会  
 住所：〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田221-3  
 TEL:0877-73-3300  
 FAX:0877-73-3202  
 永生病院のホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/>  
 eメールでのお問い合わせは [keiryokai@eisei-hp.or.jp](mailto:keiryokai@eisei-hp.or.jp)  
 発行年月日:平成23年1月25日